



優秀賞

「道しるべ」

鹿児島県立武岡台高等学校 1年 山下真央

「あなたの声が道しるべ」

私の好きな歌の中にそんな歌詞がある。その歌詞を初めて聴いた中学一年生の私は、道しるべが声ということに疑問を抱いた。本来、「道しるべ」というのはその名のとおり、道の先を示すものである。ものではなく、声。なぜ目に見えない声にしたのか理解ができなかった。

時は過ぎ、高校受験の年になった。自分の将来を見据えて進路を選択しなければならなかったが私にはこれといってしたいこと、なりたい職業がなかった。そんなある日、先生方になぜ教師という職を選んだのか聞いてみることにした。多くの先生が「子供が好きだから」「教える事が好きだから」と答えた中、ある一人の先生がこう言った。

「教師という言葉には知識を授け指導する者という意味があるの。自分の行動だけが大事じゃない。自分の言ったことで人の進む方向が変わる。それってとってもすごいことじゃないかな。未来のみんなを声で導きたい。だから先生になつたの。」

その言葉が私の心にすつと落ちた。確かに事が動くときは声を出す。声を挙げると、叫ぶ。議論する。一揆や革命など世の中を変える時も声を出す。昔から人々は声を挙げて戦ってきた。いつでも変化があるのは声を挙げた時である。先人の遺した物はたくさんあるが先人が遺した言葉もたくさんある。孔子などその一例である。孔子の言葉が語り継がれいつしか一本の道となっている。遺した言葉、まさに「声」が道しるべとなっているのだ。

教え、導くという事はすなわち、言葉が、声が今後その人の人生の道しるべたりうるということだ。言葉や声は決して軽いものではなく時には傷ついたり武器になったりするものである。正しく使うことで人の人生をも変える。素晴らしいと思う。

「あなたの声が道しるべ」そんな「声」を使っているだろうか。今一度、胸に問う。